

主任コラム 5月号

主任 澤井 良子

新生活が始まり一ヶ月がたちました。子どもたちが元気良くお部屋へ向かっていく姿や、お家の方と離れられずに泣いてしまっている姿が玄関で見られます。泣いてる姿を背にお仕事へ向かわれるのは、保護者の方も不安な気持ちでいっぱいだと思います。泣いていても担任や安心する職員に抱っこされ、気持ちを受け止めてもらう中で気持ちを切り替え、泣き止んで身辺整理・コーナー遊びへと遊びだしています。自分の力で切り替えられるまでしっかり気持ちを受け止めてから、1日をスタートしていきけるように関わりを大切にしていきたいと思っています。

ある日のことです。幼児クラスでお散歩の活動選択をしていました。その日の選択は「六地藏さん」と「すいせんのお花」のコースでした。登園した子からホワイトボードに顔写真を貼っていました。どうやって選んでいるのか見ていると

『昨日はお花にしたから今日はお地藏さんにしようかな？でも、〇〇ちゃんは、お花が好きだからまたお花がいいな』

『お友達がここにしようとお地藏さんにする』

『どっちが遠いんやろ？いっぱい歩きたいから遠いほうがいいな』

とそれぞれが思いを口に出して決めたり、またボードを見て貼ってあるお友達が少ないと、みんながどうするか見てから・・・と後から決める子もいました。それも自己決定です。色んな子どもたちの思いや選択の仕方を見たり、理由を聞いたりしてみると新たな発見もありました。次の選択では、保育士がどのようにしたら散歩を楽しめるのかを考えコースだけでなくミッション（実を〇個見つける・春の草花を見つける）も選択肢の中に含まれていて子どもたちのテンションやワクワク感も倍増でした。

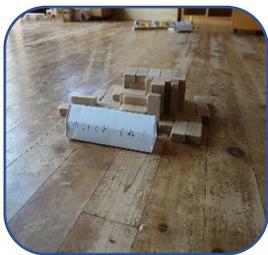


↑保育士に質問をしたり、一人ひとりが前に出て選んでる様子。



↑朝、登園した子からボードを見て活動を選択している様子。

子ども達が自ら環境に働きかけ、こんなことをしたいという思いや意欲を受け止める空間として【製作・絵本・ブロック・積み木・ままごと（未満児）・ゲーム】のコーナーがあります。その中で積み木コーナーの様子をお伝えしたいと思います。ブロック・積み木などの作品は日数をかけてつくれるように金曜日に片付けることになっています。月曜日の朝には何もなかった積み木コーナーがどのように変化していくのか見てみました。



↑積み木遊びは、子ども達の豊かな想像力と脳の刺激にもいいとされています。一人で作り始めたものが隣でつくっている子どもの積み木と融合し、家・街・動物園へと広がっていくことを楽しんでいます。【のこしておいてね】の看板が立つことで、水曜日ぐらいから積み木が少なくなったり、積み木の取り合いや、当たって壊してしまったり…というトラブルもありますが、遊びの中でお互いの思いをぶつけあうことや人間関係を作っていくうえで、子ども同士、又は保育士と一緒に解決の仕方を見つけることも大切です。



←高く積むにはどうしたらいいか？
何メートルまでいけるのかとメジャーを使って高さを測る姿も見られました。
2m42cmまでいきました。

今、保育現場では「子どもの主体性を尊重する」ということがいわれていますが、主体性＝積極性ではなく、主体性とは「その人が、その人らしくある」ことです。その子の素敵な部分がそがれないように、私たちは子ども達が興味・関心をもったことをキャッチして、子どもが自ら遊びを選択し自由に発想でき、子ども同士が協力して遊びを考え出せる環境を提供していきたいと思っています。

